

授教於學館師等高子女良奈

著 一 增 枝 木

學文國の童兒

學習資料
百科全書

木枝增一著

兒童國文學

大 阪 東 京
東洋圖書株式會社
發行



—— 學科百種 ——
 資料書

兒童の國文學

附 奧

著 者
 權 有

昭和二年六月二十七日印
 昭和二年六月二十五日發行

定價壹圓八拾錢

著 者 木 枝 增 一

發 行 者 永 田 與 三 郎
大阪市南區內安堂寺町一丁目二八

印 刷 者 松 本 米 藏
大阪市東區區橋天主寺町五七八五

印刷所 谷津印刷株式會社
 製本所 誠木製本所

發行所

東京市神田區表神保町二番地
 大阪市南區內安堂寺町一丁目廿八
 奈良市南半田西町十三番地

東洋圖書株式會社

(直接註文一手取扱) 大阪市南區內安堂寺町一丁目・振替大阪三九五五六番

大賣所 (東京) 南海書院・東京堂
 (大阪) 寶文館・盛文館
 (名古屋) 川 瀨・星 野
 (京都) 京都書籍・博省堂
 (奈良) 木 原 文 藏 堂
 (佐賀) 大坪書店
 (久留米) 菊竹書店
 (熊本) 長崎書店

學習資料 百科全書一の發刊について



自學自習は修學の根本方針であります。自ら進んで學習し、自力で伸びて行くやうに努めることは、眞に實力を得るの道であります。

自分で學習し自力で伸びようとする場合に、是非ともなければならぬものは、見易く、読み易く、取扱ひ易くして而かも信用し得る參考書であります。この趣旨から歐米の先進國に於ては、現に兒童用の百科辭書が盛に用ひられてゐます。然るに我が日本に於ては、此の種の信用ある恰好な參考書が甚だ少う御座います。これ私の日頃遺憾に思つてゐたところであります。



兒童文獻に盡したいといふことは、弊社創立當初からの願でありました。今や我が

社も諸般の準備が整ひましたので、ここに親しく兒童生徒を御教へになつた経験あり而かも夫々専門の學術に優れてゐられる先生方に御願ひして、この『學習資料百科全書』を發刊することにいたしました。一冊又一冊と加へて遂に百冊にする豫定であります。



『學習資料百科全書』は特に兒童生徒諸君のために拵へたといふ點から、別の名を『兒童百科全書』というてもよいと思ひます。そして文字、文章、書振りなどは、兒童生徒諸君に分り易いやうにしましたが、中味の事柄は大人には尙むつかしい程のことも載せてあります。この點から『通俗百科全書』又は『簡易百科全書』と呼んでもよいと思ひます。



自分で學習し自分で伸びようとする末頼もしい兒童諸君、更に同じ主義で進む中學

生、女學生諸君、學校といはず家庭といはず、諸君の勉學にはこの百科全書無くしてはならぬ御友達として戴きたい。同時に又學習主義を信する諸君は、學校を終つて實業に従事される場合にも、妻となつて嫁ぎ行かれる場合にも、常に本書を携へて永く自分で學習し、自分で伸びることに努められたい。尙世の父兄及び教師の方々にはこの趣意を御諒解の上、是非一應本書に目を通して子弟教育の資料とせられることを御願ひする次第であります。

大正十四年二月一日

東洋圖書株式會社

社長 永田與三郎

索引の活用——百科辭典

□ 讀書の目的が一冊の書籍の内容全體を究めることにあるのは勿論であるが、書中に收められた個々の部分的知識を求めたい場合も亦尠くない。

□ 學習しながら疑問の點を求めたり、職業の餘暇に必要事項を検索参照する場合の如きは、多く部分的知識を得ることを目的とするものである。

□ 依て本全書にはすべて目次の次に「索引」欄を設け、出來得るだけ多くの言葉を擧げて、この必要に備へた。之本全書の一特色である。

□ 即ち之を活用すれば學習資料百科辭典となり、又兒童百科辭典となる。而して本全書全卷を備へ置けば此上なき通俗百科大辭典となる。

まへがき

この書は、學習資料百科全書の一冊として、國文學を概説したものであります。なるべく平明に説かうとつとめたのでありますが、國文學の本質上、多少むづかしくなつたところもあらうかと思ひます。たゞ、三千年に近い歴史を持つてゐる我が國民が、内容外形ともにかくばかりすぐれた文學を持つて居るといふことが分つていたゞけば著者の望は足りるのであります。而して、これを讀まれた若き皆さんの中から、一人でもいゝ、このすぐれた我が國の文學を、將來もつともつと詳しく研究してみようと、いふ人が現れて下されば、實に望外の幸であります。

新しき昭和の光に輝いてゐる大日本帝國は、若い力にみちた皆さんが、やがて脊負ふべき國であります。その光の中から、一筋燦爛たる文學のきらめきが流れ出るとし

たら、それは皆さんの創作の力によらなければなりません。昭和の新時代は創作の時代です。三千年の過去をうしろにして、無限に進展してゆく國文學の世界も亦、この創作の世界です。この新時代の潮に棹さす若き人々のために、来るべき文學の世界に對して、この書の中に何等かの暗示になり得るものがあつたら、それは著者の與へたものでなくて、これを讀まれた皆さんの眼光が發見したものに相違ありません。さうした人の手によつてこそ次の時代の文學は創作され得るのだと思ひます。

この書を公にするに當つて多く参考としたのは藤村作氏著の「國文學史總説」でありました。又多大の助力を惠まれたのは奈良縣師範學校專攻科卒業生井戸上辰藏君でありました。こゝに記して感謝いたします。

昭和二年六月

佐保川の畔にて

著

者

學習資料
百科全書

兒童の國文學 目次

緒論

一	小父さんの話 ^{をぢ はなし}	一
	國文學研究の意義 ^{こくぶんがくけんきゅう いぎ}	
二	國文學の特質 ^{こくぶんがく とくしつ}	一四
	國文學の特質 ^{こくぶんがく とくし} ——近代の文學と昔の文學 ^{きんだい ぶんがく ひかし ぶんがく}	
三	時代區分と參考書 ^{じだいくぶん さんこうしょ}	一七
	一 上古の文學 ^{じやうこ ぶんがく} ——二 中古の文學 ^{ちゆうこ ぶんがく} ——三 近古の文學 ^{きんこ ぶんがく} ——四 近世の文學 ^{きんせい ぶんがく}	
	——五 明治以後の文學 ^{めいし いご ぶんがく}	

第一章 上古の文學（大和時代）

一	大體の話……………	三
---	-----------	---

二	古事記の話……………	二四
---	------------	----

成立——内容——文章——註釋——日本書紀——記紀の歌

三	祝詞と風土記の話……………	三
---	---------------	---

祝詞——大祝詞——宣命——風土記

四	萬葉集の話……………	三七
---	------------	----

組織——成立——歌人——註釋——佛足石の歌——懷風藻——日本

靈異記

第二章 中古の文學（平安時代）

一	大體の話 だいたい はなし	五二
---	------------------------------	----

二	古今集及び其の他の勅撰集 こきんしふおよそ た ちくくせんしふ	五五
---	--	----

古今集こきんしふの成立せいりつ——組織そしき——歌人かじん——後撰集ごせんしふ——拾遺集しゆいしふ——後拾遺集ごしゆいしふ

金葉集きんようしふ——詞花集しくわしふ——千載集せんざいしふ

三	小説・物語類の話 せうせつ ものがたりるゐ はなし	六六
---	--	----

1 伊勢物語いせものがたりと大和物語やまとものがたり——2 竹取たけとり・宇津保うつぼ・落窪物語おおくぼものがたり——3 源氏物げんじもの語がたり

語がたり——4 狭衣物語さくろものがたり・濱松中納言物語はまつちゆづなごんものがたり——5 榮華物語えいかうものがたり・大鏡おほかがたみ——6 今こん昔物語じやくものがたり

昔物語じやくものがたり

四	日記・隨筆の話 にっき ずゐひつ はなし	九二
---	-------------------------------------	----

1 土佐日記とさ にっぎ・蜻蛉日記いづるにっぎ——2 枕草子まくらぐさし——3 其の他の日記そ の た の にっぎ

五	謠物 うたひもの の話 はなし	九九
---	---	----

神樂かぐら——催馬樂さいばら——和讀わばん——朗詠ろうえい

第三章 近古の文學（鎌倉室町時代）

目

次

四

一 大體の話……………一〇四

二 新古今集及び其の他の勅撰集……………一〇六

本歌取——歌人（藤原定家・藤原家隆・源實朝）

三 軍記物語……………一二三

保元物語——平治物語——平家物語——源平盛衰記——太平記——

義經記と曾我物語

四 日記・隨筆の類……………一二五

海道記——東關紀行——十六夜日記——方丈記——徒然草

五 其の他の物語……………一三一

1 歴史物語の話——2 傳説物語の話——3 小説物語の話——4 お伽

第四章 近世の文學（江戸時代）

草子と舞の本さうし まひほん

六 謠物から劇文學へ……………一三六

1 謠曲の話——2 狂言の話えうきよく はなし きやうげん はなし

七 連歌と小歌の話……………一四六

連歌とは——連歌の發達——小歌れんが へんが はつたつ こうた

一 大體の話……………一五一

元祿時代——安永天明時代——文化文政時代げんぐくじ だいい ぶんくわぶんせいじだい

二 漢學・國學の方面……………一五四

1 漢學の勃興——2 國學の研究かんがく ぼつこう こくがく けんきゅう

三 和歌・俳句の方面……………一五七

目

次

五

四

- 1 和歌の開展——2 俳句と芭蕉——3 川柳・狂歌の發生
小説の方面……

一七三

五

- 1 浮世草子と井原西鶴——2 黄表紙と洒落本の話——3 讀本と瀧澤
馬琴——4 滑稽本と十返舎一九——5 合卷と人情本の話
劇文學の方面……

一八八

第五章

明治以後の文學（明治大正時代）

一

- 大體の話……

一九七

二

- 詩歌の方面……

一九九

三

- 1 長詩の話——2 和歌の話——3 俳句の話
戯曲の方面……

二〇六

目

次 終

目

次

七

四

史劇——坪内逍遙——新派劇——社會劇——大正時代の劇作家
小説の方面……

二〇九

五

1 歐化主義の時代——2 浪漫主義の時代——3 自然主義の時代
大正の文學……

二一四

六

1 自然主義の流れ——2 新浪漫主義——3 新理想主義——4 新理智主義——5 プロレタリアの文學——6 其の他の流れ
結……

二二〇

學習資料 兒童の國文學 索引

ア

歐化主義時代……………	二〇九
新井白石……………	一五五
芥川龍之助……………	二二八
荒本田守武……………	一六四
有島武郎……………	二二六
在原業平……………	五九
安永天明時代……………	一五二
十六夜日記……………	一二六
石川啄木……………	二〇三
伊勢物語……………	六七

ウ

井手曙覽……………	一六二
和泉式部日記……………	九八
泉鏡花……………	二一五
石清水物語……………	一三五
井原西鶴……………	一七四
犬筑波集……………	一六四
今様……………	一〇一
上田秋成……………	一八〇
浮世草子……………	一七三
浮世風呂……………	一八七